

5 エクステンションに関する事項

第4次長期計画において「社会連携政策」に位置づけられる、RECのエクステンション活動をさらに拡充すべく、「生涯学習」「産官学連携」を主な柱とし、「施設開放」や「学生ベンチャー育成」「福祉フォーラム」等の事業を推進した。

生涯学習事業では、受講者のニーズの高まりを受け「RECコミュニティカレッジ」における魅力ある講座開講に努め、130周年を迎える京都市下京区と連携して新たな講座展開も行った。加えて広告展開も精査した結果、受講者数の拡大に繋がった。また、WEB予約の導入によって、受講者サービスを向上させた。さらに、次年度に向けて大阪駅前第1ビルに講義室を確保し、大阪地域での本学の認知度向上及び知的資源の開放を目的とした「RECコミュニティカレッジ大阪」を、本格的に開講する準備を行った。

産官学連携事業においては、理工系・社文系とも産学のマッチングに繋がり得る研究シーズの発掘と、競争的学外資金の獲得に繋げることができた。また、RECビジネスネットワーククラブ(REC BIZ-NET)をはじめとする産官学ネットワークを基盤とした事業展開により、地域の中小・ベンチャー企業との共同研究プロジェクトの創成やネットワークのさらなる拡充を図った。さらに、社文系知的資源を活用した産官学連携では、地域の企業や自治体・経済団体との効果的な連携事業を推進するなど、今後の社会において、これまで以上に地域との連携が求められることが予測される中、エクステンション事業の一層の拡充に向けた展開を行った。

1) 生涯学習事業の展開

◆龍谷大学の特徴を生かし、社会のニーズを捉えた講座の展開

仏教・歴史・文学等のコースに加えて源氏物語千年紀に合わせた関連講座、シンポジウム、フォーラムの開催を積極的に展開した。また、女性のための子育て応援プログラム等、多種多様なジャンルの講座を年間367講座開講し、延べ12,000名の受講者があった。

◆大都市圏における本学の認知度向上

大都市圏にある「学び直し」のニーズを活用した本学の認知度向上策として、RECコミュニティカレッジ東京を3シリーズ(年間9回)、RECコミュニティカレッジ大阪を2シリーズ(年間6回)開講した。

◆受講生ニーズへの対応と業務効率の向上

受講申込手続きや講座受講にあたって、受講生からの要望に対応できる新REC講座システム開発に取り組んだ。Webでの受講申込予約の開始や受講票の発送等を可能にし、スムーズな講座運営・業務効率の向上に努めている。

◆龍谷講座等、無料講座の開催

龍谷講座については、その役割がRECコミュニティカレッジにて発展的に果されつつあることから、その規模を縮小し、前期3講座、後期3講座の年間6講座を深草キャンパスで開講した。このほかオムロンパーソネル(株)と連携し、女性のための再就職支援講座を開講した。

2) 産官学連携事業の展開

◆REC BIZ-NET を中心とした産学連携の推進

地域経済の活性化と本学研究活動の推進を図るため、地域の中小・ベンチャー企業を対象として、

産学連携のためのビジネスネットワーククラブ（REC BIZ-NET）を運営し、産官学連携事業を推進した。BIZ-NET では、会員企業の研究開発や企業経営を支援するセミナーや研究会を月 1 回程度にわたって定期的に開催し、企業の事業化・経営支援とネットワークの拡充や課題別研究会の起ち上げに努めた。

◆理工系産学連携の事業展開

理工系では企業との共同研究開発を円滑に推進するため、省庁や自治体などの公的機関や他大学とも連携した事業展開を図り、競争的研究資金等の支援制度を効果的に活用した研究プロジェクトの管理・運営を担い、研究開発を推進した。

◆社文系産学連携の充実

深草学舎を中心とした社文系資源を活用して、地域連携や産官学連携を推進し、特に 2008 年度 内閣府・内閣官房「地方の元気再生事業」に採択された「子育てママが生き生き働くまちづくりプロジェクト」では、大津市におけるワーク・ライフ・バランスの促進に向けた事業や研究会活動などを行った。

◆学外研究資金による研究推進

REC コーディネートによる研究開発・実証プロジェクトが、経済産業省「低炭素社会に向けた技術シーズ発掘・社会システム実証モデル事業」に採択された。さらに、科学技術振興機構（JST）が公募する「2008 年度シーズ発掘試験」には、理工学部教員と REC コーディネーターの共同申請のもとで合計 10 件のテーマが採択され、学外研究資金による研究開発を推進した。

3) 施設開放の展開

◆REC ホール・紫光館を中心とする施設開放

エクステンション事業の一環として、施設（会議室・教室）の開放を実施した。REC コミュニティカレッジの受講者をはじめ、産官学連携事業の一環である REC BIZ-NET の研究会・セミナー参加企業等による、多数の利用があった。

◆REC レンタルラボの運営

瀬田学舎 REC ホールに設置している企業向けレンタルラボについては、19 室のラボに対して 18 室への入居があり、2008 年度の新規入居は 4 社あった。地域からのニーズも高く、良好な運営状況を維持している。

◆実験・検査機器の開放

大学に設置している実験・検査機器を、地域の中小企業や REC BIZ-NET 会員企業に対して、貸出（開放）を行った。年間で 9 件の利用があり、企業の研究開発の促進に寄与することができた。

◆「子ども一時預かりサービス」による学び支援

子育て期の母親へ学ぶ機会を提供することを目的に、瀬田学舎 REC ホール内に託児室を設け、「子ども一時預かりサービス」（無料託児）を開始した。土曜日に開講するコミュニティカレッジ受講生を対象に利用を募ったところ、年間で延べ 267 人の利用があり、社会のニーズに応えた。また、この実績は「女性のための再就職支援講座」の実施につながった。

4) 学生ベンチャー育成事業の展開

◆産学官連携による学生ベンチャーの創出支援

ベンチャー講演会・ビジネスプラン作成講座・コミュニケーションスキルアップ合宿・起業相談・ビジネスプランコンテスト「プレゼン龍（ドラゴン）」等の各種事業を実施するにあたり、京都商工

会議所及び京都市中小企業家同友会などの協力を得て、応用力と実践力を備えた人材の育成と学生ベンチャーの創出支援に取り組んだ。

◆学外コンテストへの積極的な挑戦をバックアップ

他大学をはじめ他機関におけるコンテストや各種講座が充実してきたことに伴い、学外コンテストへの応募についても積極的にバックアップを行った結果、金融機関が主催する学生デザインコンテストにて、本学学生が応募した作品が優秀賞を受賞するなどの成果があった。

◆学生が主体による啓発事業の実施

これまで学生実行委員会と共催で行ってきたベンチャー講演会やビジネスプランコンテスト「プレゼン龍」等、啓発事業の企画・運営を、「プレゼン龍」学生実行委員会に委ねることにより、より学生の視点に立った事業の実施を行った。

5) 福祉フォーラムの展開

本格的な地域福祉時代の到来を受けて地域（住民）、NPOを含めた「社会福祉現場」や「専門職」に焦点をおいた活動（事業展開）を実施した。

◆公開講座の実施

「共生塾」 <前期>テーマ：「福祉のまちづくり」モデルの光と影 3回実施

<後期>テーマ：「生きる」を問う 3回実施

「専門セミナー」 <前期>テーマ：成人期を見通した学童保育専門職のしごと 4回実施

<後期>テーマ：アセスメントに求められる「見立て」 4回実施

◆フォーラムの開催

福祉フォーラム 2008 テーマ：「当事者主権の価値と実践」 <講演会及び分科会>

日 程：10月4日（土）、5日（日）

◆福祉フォーラム通信等の発行

会員向けフォーラム通信の発行等、地域福祉の現場と研究者の双方向による情報交流の活動を展開した。

6) 知的財産に関する取り組み

2005年4月に知的財産センターを設置し、知的財産の一元化を目指すとともに、REC及び研究部との有機的な連携を図り「三者一体」の体制を構築してきた。2005年度に知的財産管理アドバイザー派遣事業が終了し、2006年度からは本学独自で運営を進めてきた。

◆知的財産に関わる問題への対応

知的財産センターに弁理士資格を有する知的財産コーディネーターを配置するとともに、知的財産に精通した弁護士事務所とも顧問契約を結んで、知的財産に関わる種々の問題に対応した。

◆出願及び審査請求

複数の弁理士事務所と包括契約等を締結し、それぞれに精通した分野を把握し、多種多様な発明に対応した。2008年度には、特許出願16件、審査請求9件を行った。

◆技術移転等の促進

外部のTLO(技術移転機関：Technology Licensing Organization)や本学RECと連携を図り、技術移転先の開拓にも取り組んでた。